



いなざわ九条の会が4回月例会は、死生観という角度から憲法9条を考えます。戦前の日本は、天皇のために死んでいくことが美とされ、靖国神社は、天皇への忠誠と侵略戦争を「聖戦」とするための精神的支柱の役割を果たしました。

死に方は、人間がどう生きていくべきかとの考えと切り離せません。

生き方を国家によって強いる靖国信仰とは何なのか。仏教者の立場から「靖国信仰と仏教」のテーマで話していただきます。

講演 靖国信仰と仏教

話し 曹洞宗・永張寺 遠島 満宗住禪(祖父江町)

日時 5月19日(金)午後7時半～9時

ところ 相沢市民会館 研修室 (どなたも自由に参加できます。協力費100円)

(靖国神社とは)

明治維新前後の「官軍」の戦死者をまつる目的で、1869年に東京・九段に建てられた「東京招魂社」が前身。日清戦争後は、外国と戦った戦死者を「祭神」として祀った。祭神数は戦死者246万6532柱(04年10月現在)に及ぶ。戦後は都知事認証の宗教法人に改組された。1959年からB、C級戦犯を、78年にはA級戦犯を「昭和殉難者」として祀った。

天皇と神社の関係はいまも続いており、同神社は戦後も合祀対象者名を記した上奏簿を随時、宮内庁に提出している。45年11月に昭和天皇が太平洋戦争の全戦死者を対象とした大招魂祭のために靖国神社を参拝後、75年11月まで戦後8回参拝した。現在の天皇即位後の参拝はない。「78年のA級戦犯合祀に配慮したのではないか」といわれている。同神社は現在も「天皇親拝」を再三、宮内庁に要請し続けている。



※予 告

(肉きます)

次5回月例会 「戦争体験を肉く」(2人の方から話を)

6月18日(日)午後2時より、相沢市民会館研修室

問い合わせは いなざわ九条の会(相沢民主商工会内 0587・32・3822)